

■津田真道 法律学者。幕末にオランダ留学，維新とともに，初めて西洋法学を紹介し，司法官僚となって啓蒙活動。

つだまみち

津田真放・1829＝ 美作国津山藩料理番の子に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 8歳：
適塾入塾・1838＝ 9歳：

勲進帳初演・1840＝11歳：藩儒大村桐陽に学ぶ。

阿部正弘首座1845＝16歳：

・・・・1847＝18歳：

国定忠治疎・1850＝21歳：家を弟に譲って江戸に出，箕作阮甫に蘭学を，佐久間象山に兵学を学ぶ。
尊徳報徳論・1851＝22歳：伊東玄朴の象先堂に入る。

ペリー来航・1853＝24歳：脱藩して，長崎へ遊学，
藩籍無く苦学したが，江戸に戻って箕作阮甫の塾頭格となり，
松下村塾・・・1856＝27歳：
蕃書調所・・・1857＝28歳：蕃書調所教授手伝並に雇用され，

桜田門外変・1860＝31歳：

生麦事件・・・1862＝33歳：西周とオランダに留学，ライデン大学教授フィセリングに学んで，

薩摩藩士密航1865＝36歳：帰国，
薩長同盟・・・1866＝37歳：開成所教授職となる。
大政奉還・・・1867＝38歳：大政奉還に際しては，徳川家中心の憲法案「日本国総制度・関東制度」を構想したが，
明治維新・・・1868＝39歳：*明治維新となって，留学時の講義録を「泰西国法論」と題して訳出，わが国最初の西洋法学紹介書となる。
戊辰戦争終・1869＝40歳：明治政府司法省に出仕，一新律綱領の編纂に参画，人身売買禁止を建議，
初の日刊新聞1870＝41歳：刑部少判事，
廃藩置県・・・1871＝42歳：外務権大丞となり，日清和親条約締結に全権伊達宗城の副使として中国へ行く。

明治6年政変1873＝44歳：*{明六社}に加わり社員中最多の論を掲載，“出版の自由”“拷問論”“廃娼論”をはじめ，そのゆたかな法律知識をもとに啓蒙活動を展開。陸軍省に転じ，陸軍刑法を作成に加わる。

佐賀の乱・・・1874＝45歳：政表の訳「表紀提綱」を刊行。
三つの反乱・1876＝47歳：元老院議員，

琉球処分・・・1879＝50歳：東京学士院会員，
・・・・1880＝51歳：民法編纂委員，
明治14年政変1881＝52歳：

岩倉具視没・1883＝54歳：

内閣発足・・・1885＝56歳：高等法院陪席裁判官などを歴任，

帝国憲法発布1889＝60歳：
帝国議会始・1890＝61歳：*初の衆議院議員選挙に，東京府第八区から立候補して当選，初代衆議院副議長に選出される。

大本教・・・1892＝63歳：

日清戦争始・1894＝65歳：

白馬会・・・1896＝67歳：勅選貴族院議員。

伯爵/国産化・1900＝71歳：男爵，
田中正造直訴1901＝72歳：

日比谷公園・1903＝74歳：*法学博士となり，没した。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，